

1 本書について

調査目的

私達は、発達障害児のヘアカットについて、理美容師の皆さん、理美容師を目指す専門学校の皆さん、理美容室経営者の皆さんを対象とした調査を行いました。

- 2018年に実施した「ヘアカットをしてもらおう側」の発達障害の当事者・保護者を対象とした全国調査（回答数373件）で、理美容室でのヘアカットについて「現在困っている」または「過去に困ったことがある」という回答が86%を占めています。
- いっぽう、今回の調査では「ヘアカットする側」を対象としています。理美容師として働く皆さんや経営者の皆さんがどのような認識を持っておられるかを明らかにすることを目指しました。
- あわせて、理美容師を目指す学生の皆さんにもご協力をいただき、「発達障害当事者・保護者以外のコミュニティ全体」の認識についても調べました。

調査方法

- ・理美容師向けアンケート（有効回答数114件）
- ・専門学校生向けアンケート（有効回答数121件）
- ・理美容室経営者へのヒアリング調査（10件）

調査でわかったこと（ポイント）

<アンケートまとめ（理美容師、専門学校生）>

- 「発達障害」という言葉の認知度は比較的高かった。しかし、発達障害の人達に出会う機会、学ぶ機会、情報を得る機会が少なく、関心度も高いとはいえない。
- 学校で学ぶ機会はなく、ふだん発達障害の人達を支援している福祉・教育関係者から情報を聞く機会もほとんどない。
- ヘアカットを始めるにあたり障壁となることは、「コミュニケーションが難しい」「ヘアカット以前に、発達障害のある子どもへの接し方がわからない」「技術の習得に必要なトレーニング、研修を受ける機会がない」の3つが上位を占めた。
- ヘアカットする機会があったり、研修機会があれば、「積極的に取り組みたい」という意見が6割程度あった。

<経営者ヒアリングまとめ>

- 理美容師には「誰でもお客様」というプロ意識の高さがある。
- 一方、「発達障害」の特性や対応方法がわからないという声が少ない。特に「ヘアカットの時間がかかりすぎるのでは」など営業面での不安の声が多い。
- 理美容師養成課程に発達障害を含む障害者への対応を義務づけることについては、賛成の声もあるが、「国家資格を取得してからこそ、（あらゆるお客様に対応できるだけの）更に専門性を磨くべき」との意見も強い。

3 今後の展望

今回の調査では、理美容師の皆さんが発達障害の知識を得る機会がないこと、発達障害児へのヘアカットについて学ぶ機会がないことが大きな障壁になっていることが確かめられました。ハサミで傷つけないか、コミュニケーションが心配、経営上の影響など、理美容師側も多く不安を抱えています。これからは「スマイルカット」の普及啓発に取り組みます。そして、今後の展望として、次の3点を一緒に考えていきたいと思えます。

- ① 理美容師養成課程においても、発達障害への理解を深め、ヘアカット技術を学べる工夫
- ② 理美容師国家試験取得後も、発達障害の子ども達と出会い、経験者から学べる機会を増やす
- ③ 理美容室から広がる発達障害への理解と共生社会の実現を目指す

私達は、発達障害に理解ある理美容師の皆様と共に、「多様な誰もがお互いに優しくなるコミュニティづくり」の実現を目指しています。

無料

スマイルカット入門講座

- ① 発達障害の基礎的理解
- ② スマイルカットの概要および技術に関すること
- ③ 発達障害当事者の立場から期待すること

このリーフレットに興味を持っていただいた皆様には、是非、こちらの動画コンテンツをご覧ください。



4 調査主体

特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都（代表：赤松 隆滋）

そらいろプロジェクト京都（そらプロ）は、ヘアカットを通じて、高齢者や障害のある子ども達、みんなの笑顔のために活動しています。「髪を切る」そんな当たり前を感じられる行為が、中々思うようにできない人達が世の中にはたくさん存在します。高齢者や障害者、小さな子ども達。理美容室に行きにくい人達、また理美容室がそのような人達を受け入れにくい今の社会や業界を変えていくために、美容の面からバリアフリー社会を作っていききたい。そのような社会の実現を願って、「そらプロ」は直接支援や啓発活動を行っています。

社会福祉法人 南山城学園（理事長：磯 彰格）

1965年に知的障害者のための入所施設として京都で創業。現在は京都府・大阪府において、障害者・高齢者・子ども・就労困難者など、多様な福祉ニーズに対応する事業所を運営するとともに、幅広く「地域共生社会」の実現を目指す活動をしています。施設を利用される障害者のヘアカットを通じて、そらいろプロジェクト京都と連携し、2018年には「発達障害者向け理美容技術プログラム」を策定し、京都から全国への普及啓発に協力しています。

ヘアカットが苦手な子どもも達のことをご存じですか？

～ まちの理美容師さんへ～



① 発達障害等により、配慮を要する子ども達の特性

発達障害とは



発達障害は、脳機能の発達に偏りがある障害です。発達障害のある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションなどがとても苦手ですが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障害です。

(出典：政府広報オンライン「発達障害って、なんだろう?」)

感覚過敏(視覚・聴覚・触覚・嗅覚等)

発達障害のある人の中には、視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚など、感覚を脳が過敏に受け取ってしまうことで、日常生活を送ることが難しいほどの苦痛を感じることがあります。状態や程度は人それぞれで、感覚が非常に敏感であることを感覚過敏といいます。



集中することやじっとしていることが苦手、衝動的に反応、不注意



発達年齢に比べて、落ち着きがない、待てない(多動性・衝動性)、注意が持続しにくい、作業にミスが多い(不注意)といった特性があります。多動性・衝動性と不注意の両方が認められる場合と、いずれか一方が認められる場合があります。

初めてのことや突然の変更が苦手



急に予定が変わったり、初めての場所に行くと不安になり動けなくなることがあります。そんな時、周りの人が促すと余計に不安が高くなって突然大声を出してしまうことがあります。

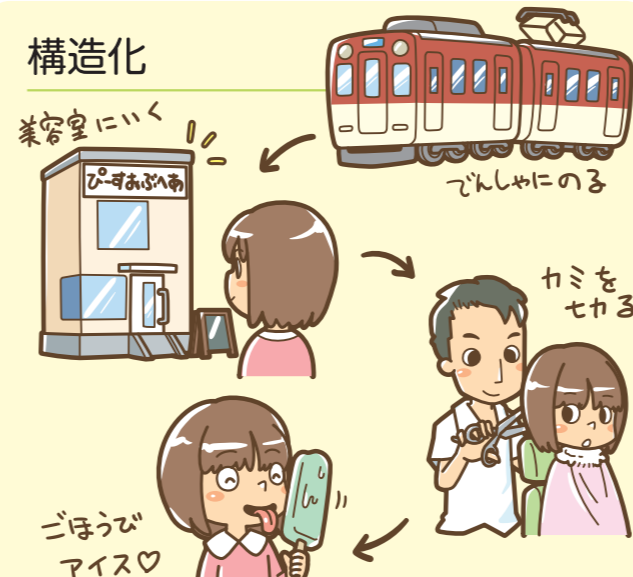
② 適切な工夫により、ヘアカットしやすくなる技術

事前準備

実際に来店していただく前に、電話等で丁寧なヒアリングをすることは、とても大切です。自宅でヘアカットしている時の様子、コミュニケーションの方法、子どもが落ち着けるもの(例、DVD、タブレット)などを知ることにより、落ち着いてカットできる環境を整えます。



構造化



物事や場面の意味がわからなくて困ることがあります。「時間」「空間」「プロセス」の意味を視覚でわかりやすく伝えることを「構造化」と言います。理美容室に行く「1日のスケジュール」を絵カードなどでわかりやすく伝えることも構造化の一つです。

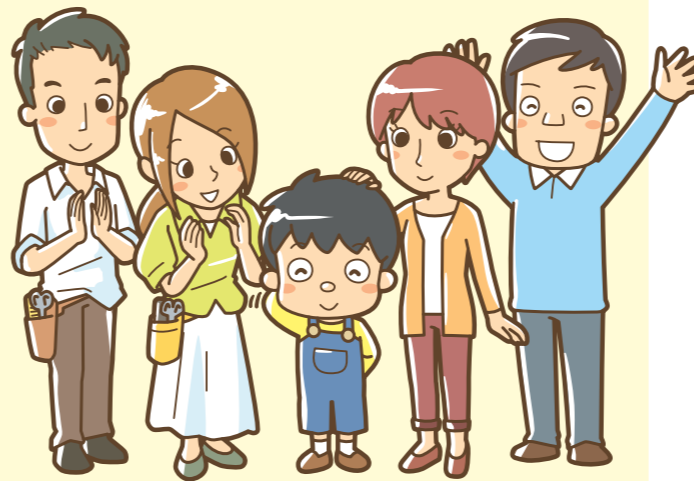
見通し

ヘアカットの流れを絵カードで伝える(いすに座る→タオルを巻く→カットクロスを巻く→霧吹きをかける→ハサミで切るなど)、モデリング(例、保護者や理美容師自身の髪の毛を数本切ってみせる)など事前情報を提供することで、子どもが見通しを立てることができます。



フィードバック

苦手なヘアカットが少しでもできるようになった子どもに対して、「たくさん褒める」ことがとても大切です。褒められることは子どもの自信となり、ヘアカット以外にも苦手だったことに挑戦できるようになることもあります。



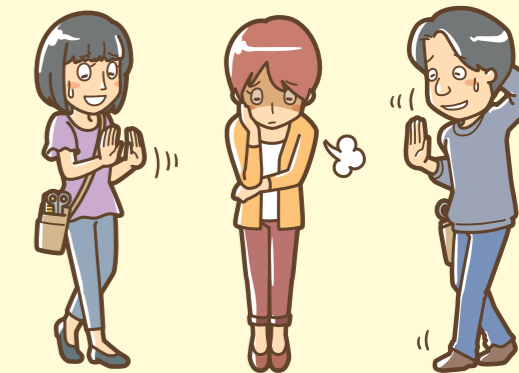
③ お店や他のお客様に迷惑をかけたらどうしよう、という保護者の思い

保護者の負担が大きい

理美容室でのヘアカットが難しいと悩む保護者は、子どもの手足を押さえつけてヘアカットしたり、子どもの就寝中にヘアカットしている場合もあります。このように理美容室を利用できないと保護者の負担は大きくなります。



どこのお店に行ったらよいかわからない(相談できない)



ヘアカットが難しいという悩みを理美容室に相談するのは、保護者にとって、大変勇気のいることです。多くの保護者は、発達障害の子どもを安心して受け入れてくれる理美容室の情報を求めています。

④ 積極的に受け入れしている理美容室の営業面での工夫

美容室ピースオブヘアー(京都市伏見区、代表:赤松隆滋)の場合



photo by Mao Yamamoto

料金の工夫

スマイルカット(配慮を要する発達障害のお子様向け)の料金は、通常料金より少し高めを設定しています。プロの美容師としての技術料と、子ども達がヘアカットできるまでの環境づくり等に対する時間・労力への対価として頂いています。スマイルカットが必要なくヘアカットができると判断すれば、スマイルカット卒業証書を渡し、その後は通常料金に変更しています。

予約時間の工夫

事前にスマイルカット希望の予約と伝えて頂けましたら、ご要望をお聞きし、なるべく適した時間帯を案内しています。例えば、子どもの泣き声が苦手な人には、他のお子さんの予約時間と被らないようにしたり、他にお客様がいるのが不安な方には営業時間外を提供したりします。全てのご要望をお聞きできないこともありますが、できる限り配慮しています。